

『神の小羊イエスを見る』 ヨハネ1:29-34

1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

1:30 『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。

1:31 わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである」。

1:32 ヨハネはまたあかしをして言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。

1:33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。

1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

●序論

先週、バプテスマのヨハネが語る悔い改めの第一のことは神に向き直るこ戸だとお話しました。そしてヨハネは、悔い改めのしるしとして水でバプテスマを授けていました。

さあ、これだけやれば人は救われる…、わたしは人を救うことができた…とは、このヨハネは言っていません。彼には、人の罪を赦すことも、救うこともできません。

彼の働きは、人の心を来たるべき救い主キリストに向けるために大切でした。

先日も申し上げました。素直な心をもって神に向きなおるならば、その人々の視界には必然、やがて神から遣わされてくるキリストも見えてくる。

今日お読みした箇所は、先週見てきたそういう問答があつての翌日、このヨハネは、イエスさまが近づいてくるのを見て、周囲の人たちに「見なさい！」と声を発するところから始まっています。」

●本論

I. この方であるとの宣言

1:30 『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。

バプテスマのヨハネは、近づいてくるイエスさまを、おそらく指さして、”この人だ！この人こそ、わたしが神から聞き、待ち望み、証言してきたである”ことを宣言します。この人こそ、「わたしよりもすぐれたかた、わたしよりも先におられたから」として紹介します。

それはとても素直でまっすぐな言葉です。ただ人間的に謙虚にふるまうというところではなく、自分も神さまにあって待ち望んでいた人を見ての安堵感さえ感じられます。

示すべき方を示すことができる。ゆずるべきかたにゆずる。紹介すべき方を紹介できる。そんなうれしささえ感じます。

のちに彼が語る、その喜びを先日も引用しました。

ヨハネ3:29 「…彼(キリスト)の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして

この喜びはわたしに満ち足りている」。

そして、現代においてこの喜びを継ぐ働きに召されているのは、教会であり、またわたしたちクリスチャン一人ひとりです。

わたしたちは救われて終わりではない、救われて今生かされているその存在と歩みこそが、救い主キリストを証しする、まさに「声」となるのだとお話した通りです。

Ⅱ. 自分も知らなかったとの告白

ヨハネにとっても、大きく目が開かれる経験をしたのだという告白です。

ヨハネはここだけで2度も「わたしはこのかたを知らなかった」と告白しています。

1:31 わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを受けているのである」。

1:33 わたしはこの人を知らなかった。…

バプテスマのヨハネとキリストとの関係について、…

この2人は、半年違いに生まれた親戚同士の間柄であった。イエスさまはそのいところであるヨハネのもとで、そのヨハネ教団のひとりであったとも言われます。

そのすべてを取ってみても、旧知の中にあつた存在でした。

けれどもある時、その認識が一変する出来事をヨハネは経験したのです。

1:33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを受けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを受けるかたである』。

1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

ヨハネは繰り返し「わたしはこの人を知らなかった」と告白した。

しかしそこに、彼の霊の目が開かれる経験があつた。そして神さまが、彼に特別な啓示をもってこの方こそキリストだと示し、知らせてくださったことが分かります。

「わたしはそれを見たので」という言葉に、彼にとって大きな体験でした。

「見る」という経験は、ただ肉の目で見るということ以上の経験です。

その前日の時点で、ヨハネが語っていたことがわかりますね。

1:26 ヨハネは彼らに答えて言った、「わたしは水でバプテスマを受けるが、あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立っておられる。

1:27 それがわたしのあとにおいでになる方であつて、わたしはその人のくつのひもを解く値うちもない」。

そしてその方を人々に紹介して、

「わたしはこの人を知らなかった」というところから「この人だ！」というように目が開かれる経験を、神さまが彼にくださったことを証ししています。

教会にこの経験が必要です。牧師に、信徒の皆さんに、教会にお見えになる皆さんに神さまが触れてくださり、この経験をすることこそ宝となるのです。

教会が持っているものは何でしょうか？ 聖書であり、神のことばです。

この神のことばに目が開かれ、はっきりとイエスさまを救い主キリストとして信じ仰いで生きることの喜びを「見る」ことこそ、かけがえのない宝となる。そのことを、このヨハネの経験に重ねて覚えましょう。

Ⅲ. 世の罪を取り除く方として知る

今日、イエスを見て最初にヨハネが人々にあらわした証しはこうでした。

1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

①この方は、世の罪を取り除く救い主である

バプテスマのヨハネのいかなる教えも力も言葉も、それがどんなに素晴らしくても、それで罪を取り除くことはできない。人を救うものではありませんでした。

なぜなら、罪は、人の内に現実的に働く力だからです。

罪は罪を呼び、また罪は罪責感を持って人生を壊します。

人の力と努力では及ばない、ぬぐい切れないものであることを聖書は多くの人の姿を通して示し、またわたしたちの歴史と現代がそれを物語っています。

だからこそ、バプテスマのヨハネは、神から遣わされたの救い主、キリストに目を向けるように示すのです。

キリストこそ「世の罪」つまり「すべての人のかかえる罪」を取り除くことのできる唯一の方だからだと示すのです。

②そのありさまを「神の小羊」としてあらわします。

イザヤ53章で預言された救い主のありさまは、いわゆる力と権力や武力で人々を救う存在ではありませんでした。

そこに描かれるのは、わたしたちの罪のゆえにその贖いとなるために、傷つけられ捨てられ、命をも捨てる小羊のようなありさまとして描かれているのです。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

まだ目が開かれていない時、だれもキリストの苦しみが自分のためのものであるとはわからず、この方が自分の救い主だとさえ知りません。

まさに、「あなたがたの中に立っておられた…のに知らないでいる」のです。

1:11 (キリストは、) 自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

しかし、それでもそんなわたしたちのために、キリストはその命をもってわたしたちの罪を背負って犠牲となってくださったのです。

聖書は、はっきりと、この救い主の苦しみによってすべての人の罪は贖われ、この方を信じる者は救われる事実を証しします。

1 ペテロ1:18-19 あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。

最後に)

バプテスマの素直な告白にあったように、…見てはいても、まだ知らないでいる、知らずとしないでいるものがあります。

これから「小羊としてのキリストが負う苦しみ」があったことを、聖書は語りだしていき、わたしたちはそれを見てまいります。

その時覚えていてください。わたしたちには神様からの助け、聖霊の臨在と導きが必要であることを。

バプテスマのヨハネの経験は印象的です。

1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

これから聖餐式を持ちます。教会で大切にされている儀式と呼ばれるものですが、形通り行えばだれでもできる…と思います。

けれどもここに神さまの特別な祝福と臨在があればこそ、これが聖餐式という特別な、主の食卓とされていくのです。

「神の小羊としてのキリストの犠牲と流された血」を思い、心からの信仰と感謝をもってこの時に臨みましょう。